

栗東市農業振興基本計画策定委員会等 主な意見及び対応

1. 第 2 回策定委員会での主な意見

(1) 「農業振興基本計画」全般、構成に係る意見

No	意見概要	対応 (案)
<b>計画の意義、目指す方向について</b>		
1	計画として何をメインとするか絞るべきではないか。	「 <u>農業振興の基本的な考え方</u> 」として、栗東市の農業の目指す姿を示します。 →本市の特性を最大限に活かす「 <u>都市近郊型の農業</u> 」の確立を目指すこととします。
2	栗東市は、(大規模な産地と正面から戦うのではなく)都市近郊の農業地域としてのあり方を考えるべきではないか。	→本計画は、都市農業振興基本計画としての位置づけも有しており、 <u>都市農地(市街化区域及び周辺の農地)の保全、活用</u> のあり方等について記載を行います。
3	2030 年までの基本計画としてのグランドデザインとともに、2~3 年区切りでのアクションプランを組込むことで具体的になるのではないか。	「 <u>具体的な施策</u> 」「 <u>計画の推進体制</u> 」の記載方法について。 →各施策の <u>取組期間</u> を前期(1~4 年目)・後期(5~8 年目)に区分して記載します。 → <u>計画の進捗管理</u> として短・中・長期サイクルでの検証・点検を行う旨を記載します。
<b>地域における農業振興のあり方(ゾーニング)について</b>		
4	地域住民が栗東市は地域の色が強いので、農業だけでなく、そこでの暮らしなどすべてに関連するところで地域の方向性を考えていくべきではないか。	「 <u>地域別の方針</u> 」として、各地域の概要及び課題等をふまえた農業振興の方向性等を記載します。 →農業の視点から地域の将来像(目指す姿)を提示した上で、農業振興の方向性を記載します。将来像や農業振興の方向性の検討に際しては、 <u>地域別説明会を開催</u> し地元意向の掘り起こし、反映を図ります。
5	市が一体となり、栗東市の農地利用計画をエリアで作る必要がある。	→ <u>地域区分の設定</u> 地域の特性(立地や生産地としてのポテンシャル、地縁的なまとまり等)及び関連計画等との整合等をふまえゾーニングを行います。 →学区(旧村)単位に基づく <u>4 地域に区分</u>
6	地域を区分けして、ここは農地として生産性を高めるという形でブロック分けをしてはどうか。	→地域別の方針と整合して「 <u>農振整備計画(農用地利用計画)</u> 」をとりまとめます。 →保全を図り、生産性を高めていく優良農地について、 <u>農用地区域に指定</u> します。
7	市と農協が連携し水はけのよい地域に野菜農家を集めて団地を作るのはどうか。	

各主体との連携、役割について（計画の推進体制）		
8	支援・育成の文言があるが、現状、支援組織が無い。JA、行政、商工会等が一体となった支援組織を作ってはどうか。	「計画の推進体制」に記載。 →計画の推進と進捗管理等を目的に、既設の組織体である「 <u>栗東市農業再生協議会</u> 」を機能強化して対応を図ります。
9	農業者の困っていることは、自身で解決可能なのか、行政の手が必要なのか。また、市民や行政ができる事を区別すると良いのでは。	「具体的な施策」「計画の推進体制」の記載方法について。 →各施策の取組主体（農業従事者、JA、行政、市民等）を記載します。 →体制整備の方針に各主体の役割及び推進体制図を記載します。

## （2）具体的施策について

No	意見概要	対応（案）
<b>農地の集約化について</b>		
10	地権者が変わっても農地の集約や大規模化することで農業がやりやすくなるのではないか	「基本的な考え方」農地の基本目標「農地利用の最適化」として記載します。 「具体的な施策」として記載を検討。
11	少数の農家（意欲のある農家）が農地を使いこなす（集約化する）ような方向性も考えるべきではないか。	→ <u>チャレンジプロジェクト（重点施策）</u> として、担い手の再編と農地の集約化、経営の合理化等を推進する『（仮称）次代につなぐ栗東農業の担い手・農地強化プロジェクト』への反映を検討します。
<b>担い手問題について</b>		
12	法人化を進めるべきである。また、他産業と同じように営農法人に就職する形で人探しや人材の確保が必要。そのためのバックアップをしてほしい	「具体的な施策」として記載を検討。 →分野[農作物・農業経営]に係る目標①-2「営農意欲の向上と持続性の確保に向けた生産者支援」の施策として反映を検討します。
13	子どもたちに、これまでの農業のイメージを払しょくさせられるように機械化、AIと融合している姿を見せてほしい。農業に対する初等教育のあり方にはまだまだ改善の余地があるのではないか。	「具体的な施策」として記載を検討。 →分野[担い手]に係る目標③-2「次代の担い手づくりの推進」の施策として反映を検討します。 → <u>関係課（各学校や学校教育課等）</u> と連携した対応を検討します。

農地の多様な活用について		
14	市街地内の農地については、地域の方々と接するイベントや家庭菜園や貸農園としてはどうか。(市が間に入り、三セク等が管理するなど)	<p>「具体的な施策」として記載を検討。</p> <p>→<u>チャレンジプロジェクト(重点施策)</u>として、担い手のすそ野の拡大を図り、非農家からの農業への参入を支援する『(仮称)生産者と消費者をつなぎ、育てる農『縁』づくりプロジェクト』、及び市街地農地の活用と理解促進に取り組む『(仮称)都市(まち)の農地を活かす、知るプロジェクト』への反映を検討します。</p>
15	空き家に農地を付けて売る仕組みはできないか。(ネット等で情報発信)	<p>「具体的な施策」として記載を検討。</p> <p>→<u>チャレンジプロジェクト(重点施策)</u>として、担い手のすそ野の拡大を図り、非農家からの農業への参入を支援する『(仮称)生産者と消費者をつなぎ、育てる農『縁』づくりプロジェクト』への反映を検討します。</p> <p>→<u>関係課(住宅課)と連携</u>した対応を検討します。</p>
農作物について		
16	米の安定的な生産ができているにもかかわらず、市内での消費率は非常に少ない。日本一安全なお米を生産しているということをもっとアピールするべきではないか。	<p>「具体的な施策」として記載を検討。</p> <p>→分野[農作物・農業経営]に係る目標①-1「農作物供給の安定化、高品質化の環境整備」の施策として反映を検討します。</p> <p>→都市近郊型の農業として、米をはじめとする農作物の<u>地産地消</u>の推進を検討します。</p>
17	いちじくはジャム等、人気でいろんな地域から提供してほしいと言われているが、農家の数が少なく追いついていない。	<p>「具体的な施策」として記載を検討。</p> <p>→イチジクは、PR不足や販路不足よりも、担い手の確保、拡大が図られていないことがより大きな課題と考えます。</p> <p>→<u>チャレンジプロジェクト(重点施策)</u>として、本市の重点作物であるイチジクを健康・安心な農作物として普及、販路の拡大と生産、供給体制の構築に取り組む『(仮称)栗東健康・安心ブランド『栗東イチジク』促進プロジェクト』への反映を検討します。</p>

市民理解について		
18	道の駅や直売所は委託販売のため、売れ残る等すると生産者に採算が合わない。フードロスの問題と共に、生産者にも還元されるシステムを考えるべきではないか。	<p>「具体的な施策」として記載を検討。</p> <p>→分野[農作物・農業経営]に係る目標①-2「営農意欲の向上と持続性の確保に向けた生産者支援」の施策として反映を検討します。</p> <p>→道の駅や直売所など事業者と連携し、都市近郊型の農業の特徴を活かすフードロス対策の可能性を検討します。</p>

### (3) その他

No	意見概要	対応(案)
19	この計画で議論した内容や計画を農家への周知が必要ではないか。	<p>→計画本編について、簡潔な内容やわかり易い表現、デザインとすることに留意して作成します。</p> <p>→計画の内容を抜粋した概要版を作成し、農家や市民への周知を図り、ホームページなどで公開します。</p> <p>→地域説明会を開催し、地域住民や農業従事者への計画の周知と意向の把握を行います。</p>
20	<ul style="list-style-type: none"> <li>・栗東市農業の強みとして記載している「軟弱野菜に適した土地」の表現は誤解を招くため修正してほしい。</li> <li>・社会潮流に「オーガニック」の追加、「Society5.0」「AI」「IoT」の日本語での説明が必要。</li> </ul>	<p>→都市部に近接した立地条件等をふまえて「軟弱野菜の産出に適した環境」に修正します。</p> <p>→オーガニックを含む消費者の健康志向の高まりについての文言を追加します。また「Society5.0」「AI」「IoT」等用語の説明を加える(資料編等)ことで対応します。</p>

## 2. 第2回庁内プロジェクト会議

### (1) 「農業振興基本計画」全般について

No	所属課	意見概要	対応(案)
1	健康増進課 (意見書)	骨子(案)について、栗東市農業の課題があまり見えてこない。課題が見えれば「基本方針・目標」のつながりが見えやすくなるのではないか。	→「栗東市農業の現況と課題」として、統計データや調査結果からみえた農業の課題を整理して記載します。
2	長寿福祉課 (意見書)	「栗東市の農業のあり方」についてどのようなイメージをもっているのか。「誇りを持てる農業」とは、誰が何のために誇りを持ち、それによりどうなるのか。市民にとっての誇りとは？行政サイドが誇れることを目指しているのか。	→「農業振興の基本的な考え方」として、栗東市の農業の目指す姿を示します。 →地域の将来像について、 <u>地域別説明会</u> により得られた地元意向等の反映を図ります。

### (2) 他計画との整合等について

No	所属課	意見概要	対応(案)
3	企業立地推進課 (意見書)	地域別の方針にかかる地域区分については、第五次栗東市国土利用計画における4区分とあわせておくことが望ましいのではないか。	→地域区分は、地域の特性及び関連計画(国土利用計画)等との整合等をふまえ、学区(旧村)単位に基づく4地域と設定します。
4	企業立地推進課 (意見書)	農地の多面的機能の発揮や防災との連携のため、農業から他産業への土地利用権(転換)制限を行うことにならないように考えておくべきである。	→「農業振興の基本的な考え方」として、多面的機能の発揮が期待される農地の確保、保全等の方向性を示します。
5	企業立地推進課 (意見書)	市街地開発との調整等が求められるとの課題対応は、国土利用計画ならびに都市マスと農業振興地域整備計画との整合が必要であると考えます。	→「計画の位置付け」として、他分野計画との関係を明記します →具体の施策等の検討に際して、関係各課との調整を行います。

### (3) 施策等(骨子案)について

No	所属課	意見概要	対応(案)
6	国・県事業対策課	農作物の「安全・安心」と「安定供給」の共存は難しいのではないか。また、道の駅や直売所で販売されているからといって「安全・安心」とは限らない。差別化を図る意味も含めて、栗東市の「安全・安心」基準などはあるのか。	「具体的な施策」として記載を検討。 →分野[農作物・農業経営]に係る目標①-1「農作物供給の安定化、高品質化の環境整備」の施策として反映を検討します。 →「安全、安心な農作物」をどのように担保していくか <u>要検討</u> 。

No	所属課	意見概要	対応（案）
7	子育て応援課	非農家の家庭であっても、将来農業を始めたいと思えるような仕組みがあれば良いのではないかと。	「具体的な施策」として記載を検討。 → <u>チャレンジプロジェクト(重点施策)</u> として、非農家からの農業への参入を支援する『(仮称)生産者と消費者をつなぎ、育てる農『縁』づくりプロジェクト』への反映を検討します。
8	学校教育課	学校で農業体験を行っているが、さらに教育課程に組み込むことは授業との兼ね合いや先生方の負担から難しい。高齢者も増える中で、若い人向けではなく元気な高齢者にも農業に親しんでもらえるような取組はどうか。	→ <u>各学校や学校教育課等と連携・調整</u> し、教育課程や先生方の負担とならない形での農業学習の実施を検討していきたい。 → <u>生涯学習課や長寿福祉課等と連携・調整</u> し、高齢者の活動の場の創出・拡充を検討していきたい。
9	学校給食共同調理場(意見書)	学校給食では、地元野菜について JA と情報共有や連携を図っている。地元の飲食店での活用や販路の開拓が必要なのではないかと。	「具体的な施策」として記載を検討。 →地産地消の推進、フードロスへの対応等への反映を検討します。

#### (4) 栗東市の農業、農産物のイメージについて

No.	所属課	意見概要	対応（案）
10	学校教育課	中学生は栗東市といえば、「栗」と答えると思うが、子どもの思い浮かべるものこそが今後 100 年先にも残り続けるような特産品となるのではないかとという視点はどうか。	→本市を代表する重点作目として、“イチジク”に集中した施策を展開していきたい。 「具体的な施策」として記載を検討。 → <u>チャレンジプロジェクト(重点施策)</u> として、イチジクを健康・安心な農作物として普及、販路拡大等に取り組む『(仮称)栗東健康・安心ブランド『栗東イチジク』促進プロジェクト』、及び市街地農地の活用と理解促進に取り組む『(仮称)都市(まち)の農地を活かす、知るプロジェクト』への反映を検討します。
11	住宅課	定住に向けて、『栗』を使う。』や『栗東トレセン』と『農業』を絡める』などで分かりやすく伝わりやすいイメージやブランド化ができるのではないかと。	→あわせて、 <u>地方創生や都市ブランド担当課(元気創造政策課等)</u> と連携し、栗東の農産物ブランドを高め農業振興や移住定住へと繋げていく取組を検討していきたい。
12	学校教育課(意見書)	特産品のイメージを浸透させるためには、子どもがイメージ(連想)しやすく味の良いことだと思う。いちじくが栗と似ていることから、「くりちゃん」の友達として、「いちじくちゃん」を作るのも良いのでは。(時代的に女の子のキャラクターがあっても良いと思う。)	
13	学校給食共同調理場(意見書)	・「いちじく」「軟弱野菜」が栗東市の特産品であることをより PR すべきではないかと。	

(5) 計画の推進体制、各課の役割等について

No	所属課	意見概要	対応(案)
14	住宅課	計画に記載する施策等について、誰が担うのか。行革の視点や市民参画の視点から可能な限りアウトソーシングする必要があるのではないか。	「 <u>具体的な施策</u> 」の記載方法について。 →各施策の <u>取組主体</u> (農業従事者、JA、行政、市民等)を記載します。
15	住宅課	次回のプロジェクト会議に向けてどの課がどの分野で関われるかを具体的に明らかにしてほしい。	→ <u>基本方針や施策(たたき案)をもとに関係各課にヒアリングを行うことを検討</u> 。 →各課の行う取組(既存/今後計画)について、本計画に位置づけることが可能なものがないか等を確認していきたい。
16	住宅課	計画の推進体制について、理解の共有に向けて図化する等示してほしい。	「 <u>計画の推進体制</u> 」の記載方法について。 →体制整備の方針に <u>各主体の役割及び推進体制図</u> を記載します。